

## 編 集 後 記

本学初2回目の紀要を発行いたします。2020年4月より開学した本学（東京国際工科専門職大学）では、学生は卒業まで600時間もの実習時間があり、企業からの実践的な職業体験が与えられ、社会性の認識や、将来のイノベーションを考える力が醸成されていく姿が、見られるようになってきており、期間の長い実習の有効性が認識され始めています。教育に於ける学生参加の機会が増え、積極的な活動がなされることから、アクティブ・ラーニングと異なる効果を発揮し始めていると思われます。その結果として、今回は学生主体による投稿が5件集まりました。企業からのサポート・協力を仰いだ地域共創デザイン実習と隣地実務実習Ⅰ、Ⅱ、ソリューション開発、デジタルコンテンツ制作応用、デジタルコンテンツ制作応用実習を通じ、プロジェクトの推進や実務の詳細な実践を行う事ができるようになってきました。短期のインターンシップとは異なる隣地実務実習Ⅰ、Ⅱにより社会の仕組みを身に着け、職業感の育成が図られていると思われます。

このように企業との協同関係を紀要にも反映できるように、今回から、著者の条件を学内のみから学外者も可能とすることに変更しました。今回、2件の学生の投稿が企業との連名のものであり、学外社会での活動が活発化しています。このような著述を元に、内外の議論が活性化し、教育研究のさらなる発展や展開が進んで行くことが期待できます。

編集委員長 大関和夫